

校名：山形大学附属中学校

所在地：〒990-0023 山形市松波二丁目7番3号

電話番号：023-641-4440

記載日：平成28年 5月 17日 記載者：渡邊 裕美

記載者役職：校長

校風、おおまかな特色について：

・「健康かつ明朗で、豊かな知性と誠実な社会性をもち、自主的で実践力のある生徒を育てる」という開校以来変わらない教育目標のもと、県内外はもとより世界でも活躍する人材を育成している。

・「奉仕の心」を合い言葉に、自主的な生徒会活動が行われている。学習面においては、大学附属の利点を生かし、大学教員による出前授業、共同での教材開発を行い、質の高い授業を提供している。また、小中連携、幼中連携、特中連携といった附属学校間で、教師だけでなく、生徒たちの交流も大事にしている。（例：各学校行事（運動会などの手伝い、合唱交流、バザーへの協力等）

・「対話力」「実践力」をキーワードに学校研究が行われている。山形県の推進する「探究型学習」の協力校として、公開授業を提供している。

・附属学校運営部の管理体制をとっている。具体的には大学教員3人が4つの附属学校園（幼・小・中・特）の運営を統括し、大学に関わる事項、附属学校園全般に関わる事項などについては、校園長と連携を取りながら運営部が担当している。

卒業生の活躍状況について：

- ① 明確な形での追跡調査は実施していない。
- ② 高校への進学先は全部、その先の大学への進学先はある程度把握している。（中学校）
- ③ 県内の大企業、官公庁等で活躍している方が多い。

勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 明確な形での追跡調査は実施していない。
- ② 公立学校の管理職（校長・教頭）、教育委員会の指導主事の職に就いている方が多い。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○授業実践を通じた大学教員との教材開発や授業理論の構築

- ・5月末に実施している公開研究会や年に何度か各教科で行われる授業研究会の場で、指導過程や単元構成に関する理論や授業内容の提案を行っている。加えて、実践のまとめとして教育実践を発行し、県内外の教育関係者より幅広いご意見をいただいている。
- ・大学教員と共同研究を通して、教材の開発をしたり、大学教員による出前授業を行ったりしている。上記の研究会以外でも、各教科で実施されている研究会等での実践発表や紙面での発表を行っている。



○「総合的な学習の時間」の中での取り組み

- ・キャリア教育の一環として、生徒のニーズに応じて計画を立て、大学教員、本校OBによる講演を実施している。
- ・中高連携の一環として、高校訪問の実施している。具体的には、中学2年時に山形市内の高等学校に訪問し、授業見学や教職員へのインタビューなどを通して、自分の将来を見つめ、進路先を考えるきっかけとしている。
- ・修学旅行の事後学習として、附属小の児童（小6）を対象にプレゼンテーションを行っている。中学生は自分たちの体験をまとめ、発表することを通して、活動の意義や内容を振り返ることができ、小学生はこれから自分たちが体験するであろう修学旅行に対しての夢や憧れを持てるようになる。小中連携の活動としても期待できる活動である。
- ・中学3年生時に、探究型学習の総まとめとして、卒業研究を行っている。自分で立てたテーマで卒業論文（レポート）を執筆している。その際に、大学の教員に専門的な立場からのアドバイスを受け、卒業論文の作成に活かしている。

○地域への還元

- ・学校施設の活用、教科の専門性を活かした講座の開催
夏季休業中、大型スクリーンやプラネタリウムソフトを使い、大学教員が代表を務める研究会の方々を講師にした親子星空観察会の実施している。室内で講話を聞いた後、実際に野外での観測も行っている。大変好評で、毎年、100名をこす地域の方々が参加している。

○附属学校園間での交流

- ・ 教員間の交流として、授業づくりにおいて特に小学校教員と連携を図っている。公開研究会での研究協力はもちろん、小中9年間の学びの単元構成をしていく視点を持つために非常に有効である。
- ・ 児童、生徒間の交流として、以下の主な活動を行っている。

【幼稚園との交流】

- ・ 幼稚園の運動会での手伝いとして、開会式でのファンファーレの演奏や各競技の試技及び補助、用具の準備や片付けを行っている。競技の合間に幼児との触れ合いも体験でき、中学生にとっては、幼児の姿を通して自分の成長を感じる場になっている。
- ・ 中学生に親しみと憧れをもつことをねらいとして、幼稚園児による運動会参観が実施されている。綱引きと応援合戦を参観し、中学生の迫力ある動きを食い入るように見ている幼稚園児の姿は印象的である。



【小学校との交流】



- ・ 音楽活動の交流として中学2年生と小学六年生の合唱交流会を実施している。中学生は来年ともに生活する後輩に歌を通してメッセージを送ることで、ともによりよい附中をつかっていこうという意識を高めている。小学生は先輩との出会いを通して、今の自分を見つめ、新しい生活への意欲を高め、歌を通して、現時点での自分たちの姿を伝えようとしている。中学生の合唱を目の当たりにし、憧れを持ち、自分たちの合唱にも一段と力が入るようになってきている。

【特別支援学校との連携】

- ・ 音楽を通じた交流及び共同学習として、リズム学習や学校活動を行っている。中学1年生と特別支援学校中等部の生徒の交流学习で、相互理解に役立っている。特別支援学校の生徒からは、巾着袋やカレンダー、木を使ったマグネット等の作品が手渡された。



○高等学校との連携



- ・ 本校生徒が多く進学する高等学校へ訪問し、授業見学や教育相談を含めた情報交換を行っている。(年2回程度)
- ・ 公開研究会の研究協力者として、高等学校の教員もお願いしている。

地域において、現在、どのような存在であると考えているのか

- ・県内外の教員に対して、授業を通して教育理論・実践に関する研究を発信し、日々の授業実践を見直すきっかけを与えている。
- ・県内教員のリーダーとして活躍できる人材を育成する。特に教科教育の場では、常に先進的で国の動向を視野に入れて、授業づくりを行っている。
- ・本校卒業生には、現在、県内の大企業、官公庁等で活躍している方が多い。そのことを踏まえ、将来、県はもちろん国や世界でリーダーとして活躍できる生徒を育成することを心がけている。
- ・質の高い教員養成を目指し、学生に教育実習の場を与えている。公立校の実習ではなかなか得られる事のできない、授業実践に向かう姿勢、指導案の作成、生徒への接し方などの面で、充実感を持たせられることを意識している。
- ・教職大学院実習において、現職教員実習生に刺激を与えている。

附属学校の存在意義、本校の存在意義について：

- ・教育実践の研究校として、大学と密に連携をとり、理論を構築し、発表できるような学校は附属学校以外ないと考える。
- ・国や県の動向を素早く捉え、県内外の教育関係者にいち早く情報を提供し、各教科のリーダー的役割を果たし、山形県の教育を牽引していくことが大きな役割であると感じている。